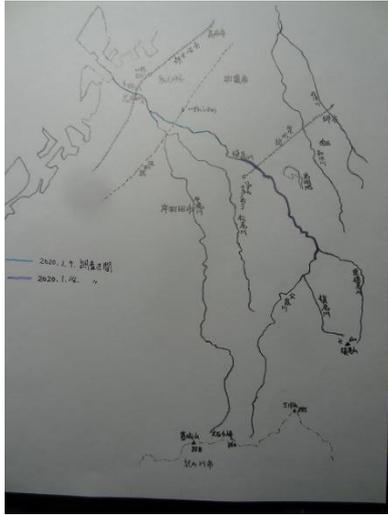


## 日本あちこち河川遡行記（第309回）

### 大阪4-1. 榎尾川（その2） 令和2年1月14日（火）曇り

先週に続き泉州の榎尾川の遡行に出かける。今日も雨が心配な天候で、この冬は雨の心配をしなければならないオカシイ天候が続いている。



01.今回調査区間位置図（紫線部）

泉北高速の終着駅「和泉中央」で下車。ホームから駅前の連絡通路までの高低差は生半可な物でない。ホームから改札口までの階段の段数は60段ほど、更に上の通路までが40段ほどありビルの5階まで上がる感じである。改札階に駅周囲の地図が有ったのでカシャ。東を上にした地図で上にこれから行く「榎尾川」が下に二次支流の「松尾川」が右から左に流れている。台地を深く掘りこんだ底に4車線の阪和道が、その北側に泉北線の駅のホームと駅舎の駅とは思えない重厚な姿をして建っている。まるで「和泉中央銀行本店」のような佇まいである。



02.駅上（東）の川が榎尾川、下は松尾川、ややこし



03.泉中央駅は和泉中央銀行本店のよう

連絡通路を北側に進み左側の駐輪場に降りる。ここにも和泉市営駐輪場があり、レンタサイクルも有る。和泉市は先日利用した阪和線の和泉府中駅、そして信太山駅、北信太駅、更に泉北線の和泉中央駅の4か所でレンタサイクル事業をやっている。ありがたや、ありがたや。先日と同じ電動アシストを600円支払ってレッツゴー。まずは北に向かい先日最後の橋の次の橋、「泰成橋」に向かう。

台地の頂上から谷底の川に長い下り坂をアシスト不要で下って行く。ブレーキをかけかけ下るがこのブレーキ力をバッテリーに入れられないかな？電車には回生ブレーキが有るのだが！漢字1字違うが孫と同じ名前の「泰成橋」に着き南側の道を東に進む。4橋ほど見て泉北線等の橋が密集している所で一旦橋を離れ近くの玉将に向かい坂を登る。電車の窓から見えていたので今日も「おう！しょうだった、ここにも有るのだ！」11時過ぎなのに早くも客が車で続々と入ってくる。今日もあんかけ五目ラーメン、それに名物の餃子3個もご注文。



04.「泰成橋」から遡行開始



05.今日も王将で昼を摂る

30分ほどして橋に戻る。川を4つの橋が三層構造で越えている。一番上が阪和道で次が泉北線そして下の両端に府道223号が並んでいる。これが台地の上の駅付近では府道が上になり、その下に阪和道と泉北線が同じ高さで並ぶのだから丘の高さが半端で無いのが分かる。

左岸側を進むと土手道の下に水仙の一群が花を咲かせている。道から川の底まで2m程度で大雨の時にこの断面で持つのだろうか？



06.三層構造の橋が上下に



07.冬の花「水仙」が咲いている

次の橋を過ぎると川沿いに道は無くなり台地の上の道に行かざるを得ない。古い民家が残る狭い市道を進むと、新しい瓦屋根と藁ぶき屋根が混合されたハイブリッド屋根の民家に思わずカシャ。台地と広い谷底の川の間急坂を何度も上下する。歩きでは足も心臓も持たず、普通の自転車ではこれも無理でアシスト自転車のお陰でスイスイと走れる。テレビで見た日本のお土産として外国人が故郷に送ったのが良く分かる。



08.屋根がハイブリッド構造の民家が



09.川と台地の間は急坂があちこちに

坂道を降りて橋に来ると対岸に護岸工として「蒲団籠」が設置されている。コンクリートと違って目に優しく風景に同化している。

橋を渡り右岸側の市道に入ると造り酒屋の大きな建物が現れる。すぐ裏の醸造所は撤去され更地になっているので廃業したようだ。普通の酒屋としての小さな店が隣に有る。



10.蒲団籠の土手を発見



11.この造り酒屋は廃業したようだ

次の国道 480 号の橋を見て再び川を離れ台地に登って行く。広い国道を飛ばしているとも距離感がおかしくなり計画していた曲がり角を通り過ぎ道を間違えてしまう。歩きでは地図を見ながら歩けるので間違えることは無いが、速度の速い走行では記憶を頼りに進むので間違ってしまった。大きく迂回してしまいこれを二度もやってしまう。6km ほど余分に走り何とか本来のコースに戻る。

「大門橋」の親柱の裏に橋の工事概要が彫られているが目視では判読不能でカメラのズームを利かせカシャ。帰宅してパソコンに取り込み拡大すると何とか読める。昭和 29 年完成の単径間コンクリートラーメン橋である。60 歳だ。



12.親柱の裏には工事概要が細かく記載されている

再度台地に上がり次の橋に降りて来ると対岸に天理教の教会が建っている。この橋は天理教専用橋のように見える。やっと川沿いに狭い道が現れ左岸側を進む。川と台地との高低差が少なくなり、普通の景色になる。

大きく右に回り込み進むと右岸側にガイアートのアスコン混合所が見える。S さん！貴社の工場がここに有りました！直ぐに支流の「東槇尾川」が左側（東）から合流して来る。この川沿いの国道 170 号（旧道）を東に進みミニ峠を越え

ると 3km ほどで「石川」 遡行時に立ち寄った「金剛寺」に至る。



13.この橋は天理教の教会専用



14.左（東）から「東檜尾川」が合流

檜尾川を越える国道の橋は 2015 年に架け替えられた真新しい PC 桁である。スパンに対する桁高が低くスレンダーな橋である。応力上は大丈夫だろうが振動と耐久性に対してはどうだろうか？ 痩せすぎよりも少し太っている方が長生きできるかも知れないぞ。

遡行調査対象ではないが少し東檜尾川に進み最初の橋「西条橋」に来ると親柱に柿が彫られている。有名な西条柿の産地では無いはずだが？



15.最新の PC 橋は桁高が低いな一



16.「西条橋」には西条柿のレリーフが

元に戻り右岸側の狭い砂利道(?)を南に進む。やがて本格的な砂利道となりハンドルを取られそうになる。間からはヒツスキの尖った種が獲物の到来を待ち受けている。これがズボンに付くと後が大変なのでそろりそろりと除けて進む。やって来た国道 170 号バイパスの歩道に入ろうとすると柵に鍵が掛かり進入不可である。アシスト自転車は重く持ち上げて越えることも出来ないのやむなく砂利道を引き返すことにして今日の調査はここまでとする。再度針のような道をひやひやで下る。帰りは台地の上をアシスト全開で颯爽と走った気分

になる。電動アシストサマサマであった。

本日の輪行距離：20.5km。調査した橋の数：19。

総歩行距離：10,755.6km。総調査橋数：14042。

使用した 1/25,000 地形図：「岸和田東部」（和歌山 10 号-1）